

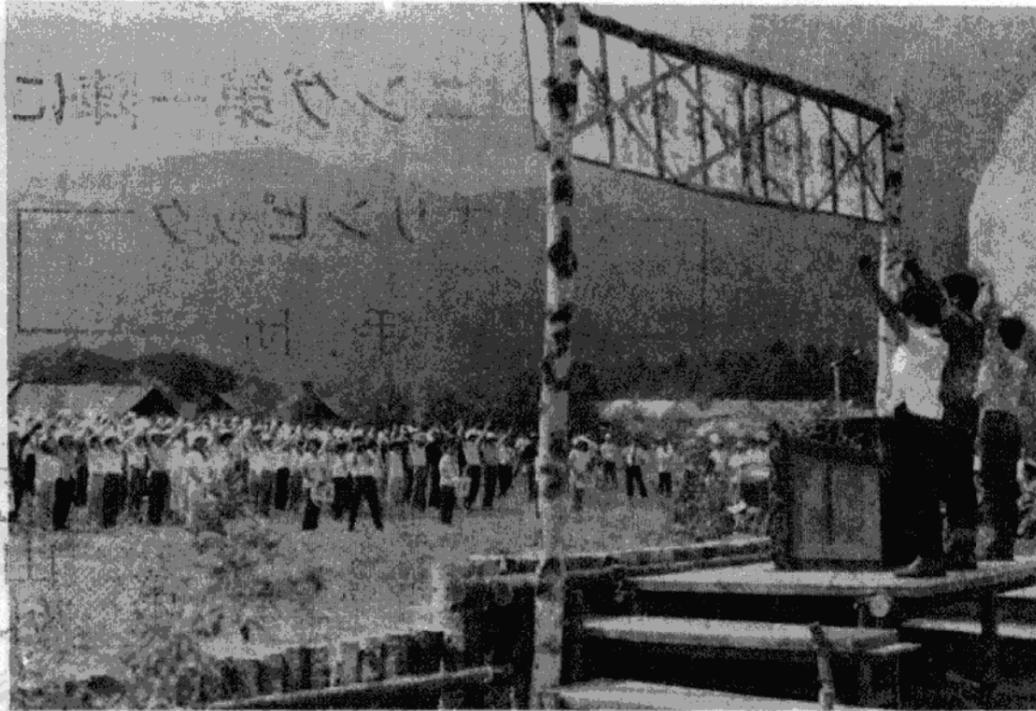
# 新時代の農業経営を…… 農村青少年野外集会開く

## 戦場ヶ原

七月二十日から二十二日まで  
の三日間にわたり、戦場ヶ原で  
第十五回農村青少年野外集会  
が開かれました。

この集会は、県内の農村青少  
年を対象に、野外における共同  
生活を通じて、仲間意識を高め  
ると共に視野を広め新時代の  
農業経営者の育成を図ろうとす  
るもので、栃木県と県青少年ク  
ラブ協議会の主催で毎年行なわ  
れているものです。

招待者など合わせて約一、四〇  
〇名。  
二十日午後一時三〇分から開  
会式を行なったあと、交歓会や  
お互いの情報交換、八田一郎参  
議院議員の記念講演など、次代  
の農業経営をになう若者として  
の自信と見識を高め、フォーク  
ダンスや音楽演奏会、地区対抗  
の和楽おどり、また中日の二十  
一日夜七時からは、大キャンブ  
ファイヤーを囲んで、各地区代  
表の隠し芸大会など、若さいっ  
ぱいの野外集会でした。



【写真は 戦場ヶ原野外集会の若人たち】

### 自衛官募集中

- 身分 特別職の国家公務員
- 待遇 衣食住完全支給、初任給三万五〇〇円、他に各種手当、ボーナス年三回
- 特典 最新の技術習得、上級学校への進学可能、除隊後は有利な就職
- 勤務 週四十四時間勤務、有給休暇年間三十日
- 志願申し込み市役所市民課

## 市史編さん室

### 「明治初年ころの日光」点描一

#### ○三社御祭礼(弥生祭)

明治四年三月二日晴 三社御祭礼御斎日に付東西町より家台まんどろ出し候、上鉢石(ね)り蛸(たこ)を子供中法師の支度(したく)にて是を引き其の蛸の中にて囃いたし候事。

#### ○満願寺炎上のこと

中鉢石におゐるは当年屋台番の事に付、花屋台まんどろ次に遡りものは鉄棒引二人、紀の国屋文左衛門に御国侍其外手踊りこれ有り候事。  
下鉢石にても吉原おいらん兩人道中のところ右おいらん手踊りいたし候事。  
石屋町にては花屋台其外、祢り鉄棒引出し、狐の嫁入に候事。

#### ○乗馬勝手のこと

右辰の半刻頃(午前九時ごろ)町場所え廻り新宮前、御宮前、満願寺前右三ヶ所において手踊りこれ有り(中略)かくの如きに付、参詣人近年年稀成(まれなる)事、数百人にて賑々しく候事。  
この文章から、当時の弥生祭にはかなり独創的なだしものが出されたことがうかがわれますが、最後にある「近年になく数百人の参詣客でにぎわった」というところなど、当時のひとが現在の数万人の人が出る弥生祭を見たなら、さぞびっくりするこゝとでしょう。

#### ○男体山登拝仕法のこと

「同年五月二十三日雨 去る十日三日晚寅の下刻(午前四時半ごろ)満願寺表御座敷向きより出火、御長屋等に至迄御炎上、辰の刻(午前八時)鎮火に相成、元輪王寺御家来中は勿論(もちろん)市中近郷其他としても非顔これに過ぐる可からず日の光に下も失い(以下略)」  
満願寺は現在の輪王寺で、三時間余にわたり燃え続けたこの大火に、下々の住民まで深く悲しんだもようです。

#### 明治五年代

#### ○外国人来見のこと

「六月二十七日 此程中より日々異人六、七人ツツ登山の事」

#### 明治六年代

#### ○授産所設置のこと

「三月二十七日 今般御仕法当山え機業授産所御取立の義に付栃木県庁より御沙汰に依り大川昌信登山のこと」  
「四月十五日 元日光奉行所跡機業開業に相成事(以下次号(高野家保存のものより)」

